

5. みんなで話そう、防災のこと

志免町の子育てグループの皆さんに日頃の防災対策について伺いました。

〈1. A-kidsのみなさん〉

アレルギー体質のお子さんを持つ親の会です。親同士の交流と情報交換を目的に活動しています。同じ悩みを持つ仲間と共に、戸惑うことの多いアレルギーっ子の子育てを前向きにやっていくことを目指しています。

日頃からどのようなことを準備していますか？

停電に備えて、玄関や廊下に、押すと点灯する照明を置いています。お風呂にはおもちゃも兼ねて水に浮かべられるライトを。どちらも100均で購入できて、子どもでもつけやすいです。

お米やお餅、コーンフレーク、ツナやフルーツの缶詰など、子どもが確実に食べるものをストックしています。防災用の保存食は口に合わないこともあるので、もったいないと思っても事前に試食しておくといいですよ。

手に入りやすく長期保存できるものを備蓄したり、定期的に遊び感覚で訓練っぽいことをしたり、日常の延長に防災を位置づけるようにしています。



子どもさんと一緒にしている対策はありますか？

防災用リュックは家族それぞれに。子どもにも持っていきたいものを入れさせてみると、親が気づかない「子どもが必要としているもの」がわかります。

子どもと離れているときに何かあった時のために、公衆電話のかけ方の練習をしておくとう安心です。小銭も日頃から準備するようにしています。



子どもの意識づけになるので、マンションの消防機器（避難ばしごなど）の点検のときは一緒に見ておくようにしています。

〈2. こころのまどのみなさん〉

町内で活動する障がいのある当事者団体および家族会 7 団体で結成されました。現在 4 団体が所属し、障がい者福祉の啓発活動や、団体間の連携などを行っています。

日頃の備えで大切なことは？

県外にある実家で地震を体験しました。電気や水道が止まったら、お料理は全くできません。缶詰やお茶、何より水を備えておく大切さを実感しました。



被災時には遠くに住む家族や親せきから安否確認の電話がひっきりなしにかかるので、携帯の電源が不足しました。災害時は乾電池式の充電器が便利です。持ち歩きできるモバイルバッテリーも重要です。

町内会長が独居老人を把握していて、大雨の後に、近所の方がボランティアでド口掻きをしにいったことがあります。会長が変わっても、配慮が必要な人には同じように支援できるような町内会にしたいですね。

防災対策で不安なことは？

公民館にカギがかかっていてすぐに開かない状態だったり、大雨で公共の施設が早めに閉館されたり、戸惑った経験があります。避難所はいつでも活用できる状態になっていることが大切ですね。

災害時には、ご近所同士で具体的な困りごとについて助け合えるような、顔の見えるお付き合いは心強いです。コロナ禍で新しい住民の方とは接触できていないのは心配です。



避難所には、色々な人が集まりストレスが高まります。学校だったら、車いすの利用者や情緒不安定な子どもなど配慮が必要な方のいる家族のために、教室を一箇所開放するなどしてみてもはどうでしょうか。